

概 要 報 告

実施期日	8月2日(金)
部 会 名	小学校 国語部会

神奈川県研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

『国語科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して
主体的・対話的で深い学びの実現に向けて』

提案概要

1 研究主題とテーマについて

目指すべき新しい時代の学校教育の姿とは

「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」(令和3年3月版)より、人生を切り開き、持続可能な社会の創り手を担うために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化に充実していくことが大切である。

2 個別最適な学び(指導の個別化、学習の個性化)に向けて

「教師がどう教えるのか」→「児童がどう学ぶのか」

- 指導の個別化 教師が一人一人にあった柔軟な指導をすること 個に応じた指導(教師視点)
- 学習の個性化 児童自身が学習を最適なものに調整すること 個別最適な学び(学習者視点)

3 実践内容

【実施学年・使用教科書・単元名・単元目標】

- ・6年生・光村図書・「考えるとは」・「3人の筆者の考えと自分の考えを比較し、自分の考えを400字で書く」

【児童の実態】

●学習における課題

- ・自ら問いを生み出すこと、学びを広げたり深めたりすることなどに対して、何をしてよいのか理解できない、行動することができない、難しいと感じている児童が多く、自分事として事象や問題を捉えることができない傾向にある。

○目指す児童の姿

- ・主体的で能動的に学びに向かい、自分の課題を理解し、課題に達成した後に納得感を味わったり次の学習に向けての意欲に繋がったり、更に学びを深めたり高めたりするなど、児童が自ら学びをつなげていけるようにする。

【指導の個別化】

- ①個に合ったワークシートの選択→児童の理解度や、得意・不得意に合わせて数種類用意しておく。
- ②個の学びを支える板書→板書に、課題を進めるためのヒントや手掛かりを書き、思考を整理できるようにする。
- ③個に応じてデジタルorアナログの選択→電子機器、紙どちらも選択できるようにする。
- ④掲示物の活用→過去の学習履歴を見ながら、学びを進められるようにする。自分の学びに必要な必要でないか、自分で決められるようにする。
- ⑤個への声かけ→児童を観察し、見取りながら、一人ひとりに声をかける。

【学習の個性化】

- ①個の目標、課題、学び方を把握する→今回の授業の取り組む際の目標や、自分の課題、学び方を事前に書いておく。
- ②他者の考えを把握し、自分の学びにいかす→友だちと比較しながら「個の学びの時間」を確保する。
- ③自分の学習手段の可視化(サイコロ)→「じっくり一人で考えたい」「一緒に考えたい」等の学習手

段を視覚的に相手に知らせるために、机に色分けされたサイコロを置いておく。

④学び方を自分で選択して学ぶ→型があらかじめ書いてある等、「支援ワークシート」を活用する。

⑤振り返りで次への課題を把握する→上段には学び方の振り返り、下段に自分の学びを振り返る。

【成果】

自ら立てた目標や課題・問題に対して、主体的に学ぶことができた。自分の目標や課題・問題を達成するために必要感に応じて、場や人や手立てを選択し、学習することができた。よって、自立した学習者の姿や自己調整力を生かして学ぶ児童の姿が見られた。また、学びに向かう力・人間性等の力（粘り強さ、調整力）が、特に育成された。

【課題】

個の学習履歴や進捗状況、また、つまずきや課題を精度高く見取ることの難しさを感じた。児童がそれぞれ決める課題設定が、本人に適したものになっていないことがあった。一人ひとりの学びの深まりに個人差があった。児童同士がもっとお互いの目標や課題をより共有しておくことが必要だった。

協議の柱及び協議概要

協議の柱⇒国語科における個別最適な学びを生かした授業づくりとは

協議概要

①今日の発表から、指導の個別化につながる場面を考える。

ワークシート、ふり返しシートなどの選択肢を提示する。選択肢を増やす。ヒントカードを作成する。卒業文集づくりなど行事やイベントを生かす。

②今日の発表から、学習の個性化につながる場面を考える。

自分がやりたいことを表現していく。漢字練習（文字or文章）の取り組み方を選択できるようにする。単元目標はみんな同じにして、振り返りで意識づけをし、どれくらい達成できたか確認する。単元目標を選ぶ。授業内に学習調整時間を作る。

まとめ概要

茅ヶ崎市教育委員会 大坪指導主事

【本提案の意義について】

「指導の個別化」「学習の個性化」を意識した授業づくりは、「個別最適な学び」とは何かを明確にするうえで大変重要である。「個別最適な学び」について考えることは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実につながり、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に資する。

【提案について】

授業中に自分の考えを友だちに伝えたり、アドバイスしたりして、今まで以上に積極的に授業に臨む児童の姿があった。一步ずつ、丁寧に進めたい児童は、自分に合ったワークシートを選んだり、学びの履歴である掲示物を見返したりして進めていた。人や掲示、板書など教室環境を上手に使う姿が見られた時には、友だちのワークシートを参考にしたり、教師の声かけやアドバイスを聞いて進めたりすることができていた。それぞれの児童が各々の学びを進める姿がたくさん見られた授業であった。また、書くことを苦手とし、友達と関わることに難しさを感じている児童が、その場において挑戦する姿があった。「指導の個別化」「学習の個性化」を意識した授業づくりが児童指導、児童支援につながる事が分かる。新しいことを1から作り上げるのではなく、理論を学んだうえで、今までの実践を丁寧に見直し、「指導の個別化」「学習の個性化」の文脈に整理し、組み立てていくことが大切である。

【協議会について】

個別最適な学びの実現に向けて、「指導の個別化」「学習の個性化」につながる場面や、それらを生かした授業について話し合った。具体例や、実際の活動などを話し合う中で、「指導の個別化」や「学習の個性化」の概念理解を深めることができた。